

# 松永 真

Shin MATSUNAGA

「福岡市彫刻のあるまちづくり事業」の23番目の作品として「平和の門」ほか4点が天神西交差点歩道広場にお目見え。カエルやキリンなどを思わせる作品たちは子どもにも親しまれ、「門」を自転車でさっそうとくり抜ける人の姿も見られます。作者の松永真さんに福岡のまちや作品について伺いました。



## プロフィール

- 1940年東京生まれ。東京芸術大学美術学部卒業。毎日デザイン賞、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレグランプリ、芸術選奨など受賞多数。ワルシャワ、ニューヨークなど世界各国で大規模な個展開催。
- ポスター、C体字などのグラフィックデザインから彫刻やミニチュメントまでジャンルを超えて幅広く活躍中。
- 「PEACE'86」のポスター、大ベストセラーの「日本国憲法」、ヒット商品の「スコッティ」や「カンチューハイ」、最近の仕事では国産コンプレックスの仏タワロ「シタシ」や東京三菱銀行のシンボルマークなどがある。福岡県では西日本新聞社、スペースワールドのシンボルマークなどもある。
- 98年度福岡県文化賞（特別部門）受賞

**東** 京のクリエイターたちの間では、福岡といえれば日本で最も元気のいいところというのがもっぱらですね。住んでいる人にはピンと来ないかもしれませんが、音をたてているようなエネルギーを感じます。それに、まちを歩くとアジアの国の言葉がそこそこから聞こえてくるのに驚きますね。ここはアジアなんだなと実感します。

今回の天神西交差点歩道広場は、最初から広場の整備と一体となったミニチュメントの作成を依頼されて、周辺環境と作品が相乗効果

を生み出し、うまくいったのではないかと考えています。

これらの作品には「現在切実に抱えている環境問題をやさしく日常の意識に取り込んでいきたい」という願いを込めています。21世紀を間近に控えて、地球が未来永劫に安全な航海ができるかどうかは、乗務員である地球上のあらゆる生命の共生にかかっていると思います。広場に登場する奇妙な生き物たちは、それぞれ生命や人間の思考、努力などを象徴する新羅万歳であり、平和のシンボルでもあります。

ただ、こんなふうにコンセプトを述べなければならぬことに、ちょっと不自由さも感じますね。自転車やゴミで暗い空間になっていたこの場所が、僕のつくったミニチュメントで明るい憩いの場になるのはいいことだけれど、本来ミニチュメントは完成した都市空間に床の間の一輪の花のように置かれるものだと思うんです。言い換えれば、説明を聞いた日く言い難い何ものかが置かれていて、それを感じたり論じたりする余裕がほしいと思います。福岡のまちはまだまだ成長の途中で、都市空間を成熟させながら、なおかつアジア的なカオスも失くさないという欲張りなまちなんでしよう。大好きなまちだから、あえて辛口の評価をしました。ほかのまちに行ったら「福岡はこんなにがんばってるよ」って伝えますよ。

「平和の門」ほか4点の作品が設置されている「天神西交差点歩道広場」は第12回福岡市都市景観賞（アメニティ部門）を受賞しました（10ページ参照）



21  
20  
19  
18  
17